

淀川水系流域委員会 第 22 回猪名川部会 結果概要

開催日時：2004 年 10 月 21 日（木）15：00～18：00

場 所：天満研修センター 101 ホール

参加者数：委員 10 名（内メンバー外 3 名）、 河川管理者（指定席）9 名
一般傍聴者（マスコミ含む）48 名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

1. 決定事項
2. 審議の概要
 - ①河川整備計画基礎案に係る平成 16 年度事業の点検について
 - ②ダムWGについて
3. 一般傍聴者からの意見聴取
4. 台風 23 号に関する報告

1. 決定事項

- ・ 次回の部会は 11 月 2 日（火）16：00～19：00 で天満研修センターにて開催する。
- ・ 河川整備計画進捗状況に対する部会としての意見をとりまとめるために、部会検討会を下記の要領で開催する。

10/25（月） 10：00～12：30 マイドーム大阪

10/28（木） 10：00～14：30 みずほ情報総研 会議室

11/2（火） 10：00～15：00 天満研修センター

2. 審議の概要

①河川整備計画基礎案に係る平成 16 年度事業の点検について

審議に先立って、河川管理者より、台風 23 号における猪名川流域の状況についてビデオとスライドを用いて説明が行われた後、資料 1「河川整備計画進捗状況報告項目」について説明が為され、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

○【計画-1 河川レンジャー】について

- ・ 河川管理者は、「なぜ河川レンジャーが必要なのか」「なぜ住民と連携していかなければならないのか」、その理由や目的についてあらためて確認して欲しい。基礎案に記載されている河川レンジャーや住民との連携に関する項目を洗い出して再確認して欲しい。河川レンジャー準備会の形態を見る限り、うまく実現できないのではないかと危惧している。準備会が活動内容等を提案するのではなくて、河川管理者自身が具体的な住民との連携方法や明確な河川レンジャー像を持っておくべきだ。河川管理者が自

発的にやっているというより、委員会の意見書に書かれているからやっているという思いが垣間見える。

←河川工学、法律、環境の学識者からご意見を頂きながら、住民や民間団体、NPOなどのように連携していけばよいか、検討していきたい。また、検討の内容については、猪名川部会で報告させて頂ければと思っている（河川管理者）。

- ・宇治川では河川レンジャーの試行的な試みが行われており、現在は1人の職員が常駐で対応している。今後は、人員や予算をどうしていくのか、ボランティア活動を取り入れていくのか、観光や学校教育を利用した活動はどうかといった試行を行っていくことになるだろう。
- ・河川レンジャーについては、河川毎に現地で実際に試行しながら進めていくほかないように思う。その中で地域的な特性も考慮していけばよい。最初から決めつけることはできない。

○【環境1～72 河川環境】について

- ・猪名川自然環境委員会では、水質について1～2つの指標を決めて継続してチェックしていったほしい。また、節水キャンペーンの説明があったが、変化しているのは水量だけではない。水質も悪化している。
- ・各部局では水質に関するデータはかなり蓄積されているが、統合的な解析までは行われていない。全体的に見て、湖沼において富栄養化がますます進行し、無酸素層が底層から中層部分まで広がっている。また、問題となる新しい生物（ピコプランクトン）も発見されている。琵琶湖でも同じような状況ではないかと考えている。
- ・水質に関するデータはかなり揃っているが、それぞれの部局で独自にデータが蓄積されているだけ。必要であれば研究者自身がデータをとらなければならない。ピコプランクトンについても、測定機器が発達したために発見できただけで、昔から存在していたものかもしれない。そういった想像をしながら進める必要があるだろう。
- ・2カ所の河川敷公園が10月に更新時期を迎えたと思うが、結果を教えて欲しい。また、河川敷にある市や町の公園施設を河川の外に出すために、河川管理者がお金を払って対応するということが実際に可能なのか。

←本日は詳しく説明できなかったが、河川保全利用委員会を開催して、今後の方向性や公園管理者から意見を聞く場をどのように設けていけばよいか、考えていきたい。高水敷の利用者にすぐに河川敷から出ていけということではなく、今後の河川敷公園のあり方や河川のあるべき姿について、河川敷利用者と合意形成をしながら、根気よく進めていくしかないと思っている（河川管理者）。

- ・河川保全利用委員会で議論をしている間に河川敷利用の更新期限がきて、河川敷はいつまでも公園のままという状況が他の河川でも起きるだろう。注意して進めて欲しい。
- ・川西市では中央地区の再開発計画、尼崎では工場跡の公園計画がある。その中にサッカー場やグラウンドが組み込まれているのかどうか等を河川管理者が積極的に市や町にヒ

アリングしていくべきだ。

- ・河川敷に街路樹や野球場をつくったり、外国の芝生を植えたりすることが、生態学的な破壊に繋がってしまう。そういうことをとても心配している。確かに河川敷公園には利便性があり、それなりのメリットはある。しかし、川にある公園がどうあるべきか、河川らしい公園の姿がどうあるべきか、河川管理者は考えないといけない。

○【治水-3 排水機場運用の検討】について

- ・ポンプ排水調整の影響について検討結果が出されているが、これは、下流域のために上流の一部の人に犠牲になってもらうということなのか。

←下流が破堤している時に上流で排水ポンプを使えば下流の被害が増大する。下流で破堤が起きれば上流も協力してもらうというのが今回の検討の目的だ。ただし、この内容で運用するということではない。あくまでも検討結果の1つとして示した（河川管理者）。

○【利水-1 利水者の水需要精査確認】について

- ・余野川ダムの検討では、大阪府営水道の水需要の精査確認結果が非常に重要になってくる。検討に間に合うよう、できるだけ急いで提出して欲しい。
- ・節水キャンペーンのラジオCMの内容は疑問に思う。川や湖に生物が棲めなくなったのは、水をたくさん使うようになったからではなく、人間の都合（治水・利水）で水をコントロールするようになったからだ。科学的に検証した上でCMをつくるべきだ。
- ・節水キャンペーンは、単なるキャンペーンで終わらせないよう、継続して取り組んで欲しい。また、何年先に何%の節水を実現するのか、具体的な数値目標を持った取り組みをお願いしたい。

○堤防強化について

- ・猪名川で最初に実施予定の善法寺地区の堤防補強はどのようになっているのか。
←設計が遅れている。善法寺地区の堤防強化に関しては、基準値に満たないカ所について洗掘と浸透対策を施す。現在、緊急区間として5kmの範囲で10カ所を選定し地質調査等を行っており、結果については、次回か次々回の部会で説明したいと思っている。地元住民へはすでに一部で説明をさせて頂いている（河川管理者）。
- ・善法寺地区でやろうとしていることに異論はないが、越水しても破堤しない堤防強化に最優先で取り組んでいく必要がある。今やっている洗掘・浸透対策では不十分だという認識を持って取り組んで頂きたい（ダムWGリーダー）。

②ダムWGについて

余野川ダムSWG 本多サブリーダーより、検討状況について中間報告がなされた後、主に余野川ダムについて意見交換が行われた。

- ・一庫ダムの利水容量を府営水道へ振り替えることができれば、余野川ダムの狭窄部上流への治水効果は失われることになる。このため、特に一庫ダムの利水容量の振替に

について検討する必要がある。問題は、狭窄部上流の浸水被害を軽減するための一庫ダム利水容量の振替先であって、余野川ダムとは切り離して考えるべきではないか（ダムWGリーダー）。

←現在、狭窄部上流の目標規模の再検討を進めており、これにあわせて、一庫ダムから余野川ダムへの利水容量の振替が有効かどうか検討し直している（河川管理者）。

- ・猪名川下流域の既往最大の実績洪水における検討結果がいまだに出されていない。余野川ダムと猪名川下流域の検討を進めるために至急資料を提出頂きたい（ダムWGリーダー）。
- ・第4回ダムWGの資料1-7では、昭和28年9月洪水を対象に余野川ダムの効果について説明されているが、1.0倍の検討結果が示されていない。何故か。

←1.0倍では堤防が破堤せず被害が発生しないため、資料には掲載しなかった（河川管理者）。

- ・堤防が破堤せず被害が発生しないから資料には掲載しないというやり方は、絶対におかしい。あらためて、検討結果を示して頂くよう強く要請する。
- ・天端一余裕高で破堤するという条件で昭和35年8月洪水1.0倍を流せば下流で破堤するというシミュレーション結果が示されている。しかし、当時、破堤しなかったことは誰もが知っていることだ。昔に較べて整備が進んでいるにもかかわらず、破堤してしまうのはおかしいのではないか。河川管理者には、あらためて、現在の整備状況で既往最大の実績洪水を対象にしたシミュレーションをお願いしたい（ダムWGリーダー）。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者2名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・猪名川部会委員には反省して頂きたい。まったく議論になっていない。また、止々呂美地区で行われた余野川ダムの住民説明会にどれだけの委員が出席したのか。委員には、もっと勉強して頂きたい。
- ・ダムの報告を出そうという局面において、この程度の議論をしてはいけない。ダムWGと同レベルの議論をして欲しい。ダムの検討に必要な資料についても、あらかじめ河川管理者と打ち合わせをした上で、議論をして頂きたい。

4. 台風23号に関する報告

河川管理者より、近畿管内における台風23号の概況について報告が行われた。兵庫県の円山川、由良川で破堤のよる浸水被害が発生しており、被害状況については後日あらためて報告する旨のコメントがあった。

以上